

M1 INTERVIEW 2018

interview #01



三宅 春彦

東京都/成蹊高校卒

趣味：音楽を聴く

1. 研究室での研究生生活のスケジュールはどのようなものですか？

昼に研究室に来て、夜に帰ります。夜型生活を許してくれるのもRCNSのいいところ。

2. RCNSに決めた理由、きっかけ

学部1年生の時の基礎ゼミで神岡の地下で簡単な実験をさせてもらったことが大きいと思います。当時RAをして下さった先輩には今でも色々なことを教わっています。



3. どんな研究をしている？したい？

KamLANDグループに所属して事象再構成の計算プログラムの開発をしています。事象再構成というのは、検出器内のいつ・どこで・どんな反応が起きているのかを生データのデータからコンピュータで処理して決定する過程のことです。機械学習をはじめとする新しい手法を組み込んでより高い精度をだせたらと考えています。

4. 物理（素粒子研究）のおもしろいところ、魅力

身の回りの「何でだろう？」に答えてくれるところ。そして物理学自身が己を検証する術を持っていること。



5. 大学院に入ってからの変化

生活のペースはさほど変わりませんが、データ解析がメインの研究をしているのでパソコンに向かっている時間が増えました。苦手だったプログラミングやコンピュータの知識も少しずつ増えてきています。

6. マイブーム

野良ネコと戯れる。

7. 息抜きの方法

本屋に行く。神岡出張のときは温泉に行く。おいしいものを食べる。



8. 毎日欠かさない事

自然体でいる事

9. 好きな本は？

学生便覧

10. 未来の後輩に一言！

最近思うのは、苦手だと思っていることも必要に駆られてこなしているうちに克服できてしまうことが多いということです。得手不得手を自分で決めつけないほうがいいのかもかもしれません。研究室に所属してから勉強しなくてはならないことも山ほどあって大変ですが、ニュートリノに限らず素粒子の研究に興味のある人にとってはRCNSは最高の環境です。